

○事務局 まだ時間前でございますけれども、おそろいでございますので、第3回目の高石市立幼稚園再編等検討委員会を開催させていただきます。

本日お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。早速ではございますが、設置要綱第6条第2項の規定に基づきまして、議事の進行を大方委員長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○大方委員長 そうしましたら、資料のほうですが、検討委員会の資料がありまして、次第が置かれていて、議事としての事務局説明で、再編基準の策定というふうになっていきますので、この間ここで議論したことで、資料を出してほしいと言ったことを受けて出していると思うんですけども、先にご説明いただけますでしょうか。

○事務局 資料を2枚めくっていただきましたら、まず1ページでございますが、高石市における幼児教育の今後の方向性ということでございます。前回、幼稚園の再編基準についてご議論されている中で、議論がまとまらずに終わってしまったような経過があるんですけども、その議論の中で、再編に当たって、市としての今後の幼児教育に対する考え方といいますか、ビジョンをしっかりと示した上で再編をやっていくべきじゃないかというご意見をちょうだいしました。そういった意味で、今回市としての考え方を明らかにするために、ここに今後の方向性というのをお示しさせていただきます。

この内容でございますが、まず最初に書いていますのが、子どもの心身の健やかな成長を促して、生涯にわたる人間形成の基礎というものを培うために、今後、幼児教育というものを進めるに当たっては、平成21年にいただきました高石市の幼児教育のあり方報告書の内容を踏まえまして、施策の展開に努めてまいりたいということでございまして、それに対して市としてどういう目標、目的を持ってやるかということでございますけれども、高石市におきます現在の幼児教育の現状、そういったものをしっかりと認識した上で、公と民間、公民の役割分担というものをしっかりと意識しながら、市立幼稚園の再編等によって、「等」といいますのはほかのサービスの提供でございます、そういったことによって教育上望ましい集団活動が実施できるような教育環境を確保してまいりたいというのが、市としての今後の幼児教育に対する考え方でございます。

それで、具体的に申し上げますと、まず公民の役割分担につきましては、少子化が進んでおります。そういった中で、保護者のニーズもかなり多様化しているという状況でございまして、公立と私立というようなそれぞれの特色を生かして、保護者の方々のニーズに合ったサービスを選択できるように役割分担をして、目的や機能の違いというものを踏ま

えながら施策の展開を進めてまいりたいということでございます。

公立幼稚園の役割といたしましては、障がいを持っておられる子どもさんですとか、課題を抱える養育環境にある親子さんへの教育支援、そういったものを担っていかなければならないということでございます。

それから、市立幼稚園の適正規模、適正配置についてでございますが、幼児教育のさらなる向上を目指し、教育上望ましい集団活動が実施できる教育環境を確保するために、市立の幼稚園を再編することによりまして、適正な規模の市立幼稚園を適正に配置してまいりたいということでございます。その再編に合わせまして、通園につきましては通園バス等による通園手段の確保についても検討を行ってまいりたいということでございます。

次に、預かり保育と3歳児保育についてでございますが、まず預かり保育につきましては、新幼稚園教育要領におきまして、地域の実態でありますとか、保護者の方々の要請によりまして、教育時間の終了後に行う預かり保育を含めた教育活動について留意事項が示されておりますので、今後、受益者負担を考慮しながら、市立の幼稚園がこういった形をとるべきであるかについて検討を行ってまいりたいということでございます。

次に、3歳児保育につきましては、3歳といいますのは自我の芽生え、そういったことによる社会性の発達が著しく出てくる時期でございます。その時期といいますのが、人格の形成にも大きく影響を与えるというふうに言われております。そういったことを考慮する必要があること等から、保護者の方々のニーズでありますとか本市の財政状況などを見きわめながら、市立幼稚園におけます3歳児保育の試行的な導入について検討を行ってまいりたいということでございます。

今申し上げましたのが、今後市が進めていくべき幼児教育のあり方、方向性でございます。

次、2ページ、めくっていただきます。

こちらは市立幼稚園の再編基準（案）ということでございまして、第2回目の検討委員会のときに、10項目ほど上げさせていただいて、基準を整理させていただきたいということでご議論いただいたわけですが、その議論の中でいただきました項目をわかりやすく整理させてもらったのが、この基準になります。

まず、適正規模ということで、幼稚園はどれだけの規模が適正かという基準でございますが、あり方の方向性を踏まえた基準でございます。1クラスの下限といいますのをおおむね20名程度としますけれども、支援を要する園児の方の増加への対応等を考慮しな

がら、一定弾力的な運用を図ってまいりたいと。それから、可能な限り、できる限り各年齢において複数学級を目指してまいりたいと。この2点が適正規模の基準でございます。

それから、適正な市立幼稚園の配置の基準でございますが、1つ目が、園児の生活エリアでありますとか通園時間、通園距離にも配慮しなければならないということでございます。それから、あり方の中では駅勢圏という言葉が出てまいりましたが、ここでは中学校区、3中学校ございますが、中学校区に配慮し、バランスのとれた配置を行ってまいりたいということでございます。

それから、3つ目の再編の基準でございますが、これ1番から8番までお示しせさせてもらっています。これも前回の資料としてお示しさせてもらったものを整理したものでございますけれども、再編の基準といたしましては、こういった8つの評価項目ごとに適正な点数の配点を行いまして、総合的な評価によって再編が必要な幼稚園を抽出してまいりたいというのがこの再編の基準でございます。

次に、3枚目でございますが、ちょっと字が細かくて申しわけございません。これは前回の検討委員会の中で、大方委員長のほうから各幼稚園の状況等について資料があれば提示せよということでしたので、このペーパーにまとめさせていただいております。数字的な細かいところは申し上げませんが、順番に簡単に概略申し上げますと、駅勢圏、高石駅、羽衣駅、富木駅というのと、それに絡んだ中学校区、高南中学校、高石中学校、取石中学校と、そういった校区ごとに幼稚園がどういうふうに配置されているのかということで、高南中学校区には高石と高陽幼稚園があると、高石中学校区には羽衣幼稚園と北幼稚園がある、取石中学校区には加茂幼稚園があるということでございます。

上から順番に見ていきますと、高石幼稚園の定員、園児数、定員に対する就園率というのがございます。定員に対する就園率でございますけれども、前回口頭でご説明させていただきましたとおり、定員に対しましては16.4%、それから2つ横ですね、幼児人口に対する就園率、その幼稚園の通園区域に住んでおられる子どもさん、幼稚園に入園対象となる子どもさんの数に対する就園率はどのようなものかというのがこちらの数字でございまして、高石の場合は合計で16.7%ということでございます。

それから、3つ横の竣工の年月（築年数）でございます。高石幼稚園は昭和48年3月の竣工でございますので、築38年経過しているということでございます。それから、耐震の第1次診断のIs値でございますが、0.61という数字になってございます。敷地面積は1,380平米。それから、小学校との連携を考えた場合の位置関係でございますけれども、高石幼

稚園については、高石小学校と若干距離があるということ、そういう位置関係にございます。

それから、適正配置ということで、あくまでもこれは仮ということですが、中学校区ということで、3園とした場合の配置的なバランス、ここに書いてございますけども、高石幼稚園の場合は、徒歩での通園を考慮した場合、他園の通園アクセス圏と重複してまいりますので、バランスが余りよくないかなということ。それから、周辺環境につきましては、住居が密集しているところに位置してございます。周辺道路も狭隘で、園の北側の開発ということで、避難経路確保もできないような状況になってございます。高石駅には近い、便利な場所にあるということでございます。

次に、高陽幼稚園でございますが、こちらは定員に対する就園率は30.7%。幼児人口に対する就園率は18.1%しかございません。それから、竣工ですけども、昭和56年3月の竣工でございますので、こちらは築30年ということでございます。Is値につきましては、管理教室棟が0.43、遊戯室というのは、これは耐震化の対象外の建物になりますけども、1次診断の結果としては1.06ございました。敷地面積でございますが、3,199平米でございます。小学校との位置関係になりますと、高陽小学校が一番近くになるんですけども、府道、旧の26号線が真ん中にありまして、かなり距離的には離れているという状況です。それから、3園とした場合のバランス的なものですが、内陸部の西の端に位置していますので、市の中心からは若干距離が遠くなりますけども、3園とした場合の配置的なバランスは比較的いいのかなというふうに考えています。それから、周辺環境でございますけども、王子川という川に面しておりまして、南海本線鉄道のほうからも遠い位置になるということでございます。

次、羽衣幼稚園でございますが、定員に対する就園率は32.9%、幼児人口に対する就園率は30.9%。竣工が昭和48年11月ですので、38年築年数が経過しているということです。Is値は0.51でございます。敷地面積は1,485平米、小学校との位置関係につきましては、羽衣小学校と隣接した、同じ敷地内にあるようなところに位置してございます。それから、バランスでございますが、他園の通園アクセス圏と重複する箇所が比較的少なくて、バランス的にはよいと言えると書いております。通園アクセス圏といいますのは、一応園を中心にした半径800メートル程度というふうに考えて、後で図面で示させていただきますけども、そういうふうになってございます。周辺環境でございますが、羽衣駅に近く、便利な場所でございますけども、鉄道に隣接した格好になりますので、騒音等が若干気になるか

なという周辺環境になります。

次、北幼稚園でございますが、定員に対する就園率は30.7%、幼児人口に対する就園率が24%。それから、竣工でございますが、管理教室棟が昭和45年9月の竣工ですので、築41年たっております。それから、保育棟につきましては、平成6年3月の新耐震基準以降の建築でございます。築年数は17年、耐震化対象外ですので第1次診断は行っておりません。それから、敷地面積は1,696平米。小学校との位置関係につきましては、若干距離があるということです。それから、バランス的には他園の通園アクセス圏と重複する箇所は比較的多くなりますので、バランス的には余りよくはないかなということでございます。周辺環境につきましては、南海本線羽衣駅に比較的近い位置にございまして、市の幹線道路、計画中の道路でございますが、接道予定となっております。

最後に、加茂幼稚園でございますが、定員に対する就園率が52.0%で、幼児人口に対する就園率は23.2%。これは取石幼稚園の廃園ですとか、清高幼稚園の民営化に伴いまして、加茂幼稚園の通園区域というのがかなり広い区域に広がっています。そういった影響もあるのかなと思います。定員に対する就園率に比べて、かなり低い数字となっております。それから、築年数でございますが、昭和48年3月の竣工ですので、こちらの棟も築38年ということでございます。Is値につきましては、保育室棟が0.31と、かなり低い数字でございます。管理棟と遊戯室につきましては0.52。敷地面積が3,632平米で、加茂小学校とは市道を挟んで隣接した位置関係になってございます。3園とした場合、バランス的なものでございますが、配置的には他園との比較を、これは取石中学校区に1園しかございませんので、比較は特に要しないかなと思っております。周辺環境でございますが、市の中心部に位置しておりまして、周辺道路も整備された地区に位置しているということでございます。

これが各幼稚園の状況でございます。

4ページでございますが、中学校区内にあります幼稚園ということでまとめさせていただきましたけども、中学校区を中心に考えた場合に、想定される配置の例をケース1から4までお示しさせていただいております。こういう4種類の配置があるのかなと思います。それをイメージしていただくための図面が5ページから8ページまでの図面でございます。

まず、5ページのほうは、これはケース1の分でございまして、高石中学校区に羽衣幼稚園、高南中学校区に高陽幼稚園、取石中学校区に加茂幼稚園とした場合の位置関係でございます。この場合にできる三角形というのは、ほかの配置に比べて一番広い範囲になり

まして、市内全域はカバーできませんけども、一番バランス的にはいいようなイメージはございます。

ケース2の場合、先ほど通園圏が重複する部分が多いと申しあげましたけれども、円が重なる部分が結構出てきますので、そういった意味でバランス的にどうかなということも申しあげました。

ケース3につきましては、北、高陽、加茂というケースでございますけども、1番目のケースに似てございますけども、若干この三角の面積が狭いということでございます。

ケース4につきましては、北と高石、加茂という図でございますが、これもかなり通園区域が重複してまして、バランス的にはよくないかなと思っております。

次、11ページをごらんいただきたい。

これはちょっとモノクロで見にくいんですが、本来現場に行って幼稚園の状況、昼間でしたら保育の状況などを見ていただけたら一番いいのですけども、なかなか委員さん6名そろってそういったお時間をとっていただく暇もがございませんので、航空写真でございますけども、こういった場所に位置している、こんな周りの環境になっているというのを、先ほど説明させてもらいましたけども、絵としてのイメージを伝えるためにお示しさせていただきました。

高石幼稚園につきましては、先ほど言いましたように、住宅地の中にございまして、先ほど私、北側に開発区域と申しあげましたけども、これは東側の間違いでございまして、一番東、東南側のラインのところ、空き地があったんですけども、ちょうど開発に使っておりまして、こちらのほうにも何かあった場合にも避難できないということになりますので、西側の前面道路だけしか使えないという状況になっています。

その下の羽衣幼稚園ですが、これは東側のブロックが見えていますところ、これが南海本線でございます。下に見えているのが、羽衣小学校の体育館、左側にあるのが校舎と学校グラウンドという、こういう位置関係になってございます。

12ページの上が高陽幼稚園でございまして、市の内陸部の西南の一番端っこのほうにございまして、下に見える黒い、黒っぽい混ざったライン、これが先ほど申しあげた王子川ということで、東側に並んで走っていますのが府道、旧の国道26号線でございます。

それから、北幼稚園でございまして、こちらのほう、南側、真っすぐな線と下に曲がった線がございまして、このラインのところには新村北線という市の道路が接道予定で、かなり買収も進んでおりまして、近年中には道路も開通して、そこに接続すると利便性が

向上される予定になってございます。

最後に、加茂幼稚園でございますが、13ページですが、こちらのほうは市の中心部にありということで、市役所からほど近い位置でございますけども、市役所の北側に加茂小学校といたしまして、この加茂幼稚園の黒で囲んだ左下の部分、こちらが加茂小学校のグラウンド、下に見えているのが体育館でございます。市の市道を挟んで隣接している状況になってございます。

今の航空写真で、各幼稚園の周辺のイメージですとか、中学校区を中心に配置した場合の位置関係的なイメージなんかを持っていただけたらなと思うんですけども、そういったことを念頭においていただいた中で、まず再編の基準についてご議論いただけたらと思いますので、よろしくお願ひ申し上げます。

以上でございます。

○大方委員長 ありがとうございます。

そうしましたら、今のお話を受けて、まず質問等ございますでしょうか。

○西條委員 9ページ、10ページは。

○事務局 これは参考につけさせてもらったんですけども、3中学校をベースに考えた場合、こういう園の配置をすれば市全域が3つの園でカバーできるのかなとイメージさせてもらっています。この場合、羽衣幼稚園や北幼稚園、若干その円の中心に近いところになりますけども、高石や高陽幼稚園というのは若干離れている。加茂幼稚園につきましても若干中心から離れているということで、理想的な、位置としてはこういうのもあるのかなということで、参考例としてお示しさせてもらっています。

それから、10ページにつきましては、加茂幼稚園を中心とした徒歩圏内をお示しさせてもらったような図面になるんですけども、これも半径800メートルでお示しさせてもらっています。これも後でお示しさせていただこうと思ったんですけども、加茂幼稚園の円がかなり広い園区になってございますけども、その園区の中で800メートルを超えるようなところからも通っておられるお子さんがいらっしゃいますので、どういうところがどういう位置になるのかというようなものをイメージしてもらうための参考図面でございます。

以上でございます。

○大方委員長 そうすると、加茂幼稚園が一番子どもさんが、この間の話では唯一基準にうかって、加茂幼稚園1本になったら、この丸になるということですね、そういうことですね、1園にもしなった場合は。

○事務局 はい。

○大方委員長 ありがとうございます。

ほかにご質問ございますか。

そうしましたら、またあれば聞いていただくとして、最初の会議の、前々回のときに園長先生からご質問があったときは、人数の問題のご質問があって、基準20人ということで、これを踏まえて、それでなければいけないというようなことだったと思うんですけども、そうすると、まずそれで該当するといったら、さっきの一覧表を見てわかるように、加茂幼稚園しかなくて、そして今ちょうど校長先生がおっしゃったこの10ページの表で書いておしまい。議論はそれでおしまい、加茂幼稚園が生き残り、あとはさよなら。とこういうことになってしまうわけですね。ということですね。きょうのお話であれば、2ページ、この間いろんな多角的に議論をさせていただいたこともあって、いろんな視点で見えていき、中学校区で話もあったり、小学校の連携と、ということを見ていくと、できれば適正規模の基準のところで、おおむね20名程度とするが、それと、もしかして数が減ることによって入園される方もいるかもしれないという、前回私たちが発言させていただいた希望的観測ですけども、そうすると弾力的な運用ということもあるのかなと思います。実際にふたをあけないとわからないですけども、きょうの再編基準案として一応市として出してもらったのは、弾力的運用という言葉は非常に考えてもよいと私は受けとめたんですが、それでよろしいでしょうか。

○事務局 はい、委員長のおっしゃるとおりでございます。

○大方委員長 希望的観測かもしれないけども、前回ここで議論して、5が幾つかに減ったときに、加茂だけだと校区が広過ぎて、園区が広過ぎて、通えない方がいらっしゃるでしょうし、逆に幾つか残れば、そこに私立じゃなくてやっぱり公立に行きたいという方は行かれるかもしれないので、それを思うと、やや緩やかなものであってもいいのかなと、ここでぱっきり切ってしまうと、あと5・1というような過激なことではなくて、緩やかであってもいいかなという印象を今回受けておりますが、一応2と言ってもらったことにしましょう。「不明2と言いました。」ということで、園長先生のご意向もそのほうがやや心穏やかに帰ってもらえるんじゃないかと。

そうすると、中学校区ということで考えたときに、先ほどの3つということにたぶんなってくるんだと思うんですけども、そうすると、中学校区ということで考えていって、耐震、逃げる場所、今とにかく市民目線で考えると、安全なことと、やっぱり避難



できるということが重要で、それとせつかく公立いくつかに再編するならば、ある程度広域のところの方々にも不都合がないようなことはイメージしなきゃいけないかなとは思いますが。

今、4ページに出してくださったのが、それも含めた1、2、3、4、中学校区に分けた場合も4つ案ですね。ということは3つまでよいと。2にせいとは言っていない。3あるということですね。

○事務局 はい。1中学校区1幼稚園というのが説明がしやすいというふうに考えていますし、そのレベルでしたら、我々が考えています幼児教育に一番適切な環境というのが何とか確保できるんじゃないかというイメージを持っています。それ以上減らすことも考えられなくはないですけども、やはり子どもさんの生活エリアでありますとか、通園時間、通園距離というのを考慮いたしますと、最低3園は残すべきなのかなというふうに考えてございます。

○大方委員長 ありがとうございます。公立の役割とすれば、本当は校区に1個は必要だと思いますけども、子ども指針とか、今言われている国のシステムであれば、保育園であればみんなこども園に行くことになっていくので、2園で幼稚園を減らしてくださいというような案は考えられなくはないのですが、じゃ、一応公立は公立の役割として、中学校区に1つはあるというふうに思っているわけですよね。ということは、逆にいらん事を言っただけいけないのかもしれませんが、こども園構想がいろいろできたとしても、今の幼稚園もある程度残されるイメージで思ってもいいんですかね。

○事務局 国が今考えておられます子ども・子育て支援システムを踏まえてということも当然考えておりますけども、将来的なシステムと言われているような総合施設というんですか、保育所と幼稚園が一体となったような、そういう施設を目指すべきなのかなという思いもありますけども、一足飛びにはそこまでは無理なのかなというイメージもございまして、施行当時には幼稚園として残すようなイメージで、その後、国の誘導もあるかもしれませんが、保育所との連携も協議しながら、法律で目指すような方向に進んでいけたらいいのかなというふうなイメージで思っております。

○大方委員長 そしたら、校区に幼稚園が残るというイメージで考えさせていただきます。

そうしたときに、そうはいっても5が3になるときに、じゃどこが3になるんやと、校区の中で。順当にいったときに、加茂幼稚園さんというのは、人数的にもいろんな意味で校区に1つしかないということもありますし、もともと人数でいえばここが残るというイ

メージもあるんですけども、まずちょっと消去法でいこう。

加茂幼稚園さんが、逆にいうと残すということについての議論がございますか、これ一番に言えるんでしょうけども。先ほどの一覧表のほうで、3ページのところを見ていただいて、ここではっきり決めなくてもいいですけども、ただ一応校区に1つということと考えたときに、加茂しかないので、加茂を残さなければ校区に1つにはならないので、単純にいうと加茂幼稚園が今決定じゃないんですけど、イメージとすれば大きな意味で、耐震に関しても全部、残ったところは何とかしてもらわんと、これを約束していただかないと。残ったところはなくなった他の分もメンテナンスをしていただかないことにはちょっと困ると思うんですけども。

今、定員に対する就園率が52%で、幼児人口に対する就園率は、羽衣さんのほうが実はいいんです。半分来ているけれども、その地域の子どもさんの割合にすれば、羽衣幼稚園さんの一番、小学校と隣接しているということが非常にメリットがあるかもしれないですけど、保護者も横に小学校があるから通わそうかという思いが、保護者おられるんでいかがですか。

○中西委員 そうですね。強いと思いますね。交流する頻度もやっぱり多いですし、ほかの学校さんはわからないですけども、かなり数も多いと思いますし、逆に小学校から幼稚園に来ていただいて、一緒に交流するというのも何度もありますので、やっぱりそれは幼稚園児にしたら、ここの小学校に行くんだという意識はすごく高いですよ。やっぱりそれは地域の幼稚園だからこそできることだというのは、保護者の話でも伺っています。

○大方委員長 敷地も結局、隣接しているというので広く使えるわけですね。

○中西委員 そうですね。中は本当にもうフェンス1つで、幼稚園にきょうだいがいる子どもさんなんか、その中の門を通過して、幼稚園帰りに寄るんですけど、通って、親は両方連れて帰れるというふうな感じにはなっています。

○大方委員長 避難がしやすいとかですね。

高陽さん、高石とか、高南中学校区というのはどうなんですか。定員に対する就園率は高陽さんが高くて、就園率も高陽のほうが高いとはいえ、数字としてすごく高いというわけではなくて、やや敷地的には高石と高陽では比較にならないくらい大きさが違うんですけども。質の問題は、さっき園長さんがおっしゃっていましたが、公立は基本的にみんなそれぞれに公立として、園長先生は転勤とかもありますし、ここの公立がよくてこのほうがなんていう、逆にいうとちょっとおかしい気がしますね。園長先生もそのとき

の地域性とか時代によっても変わるでしょうから。

○ト田委員 すみません。今、中学校区ということで一つの流れとしてなっているのかなと思うんですけど、そうであったとしたときにどこを残すのかということが、たとえば、公立幼稚園のある種の魅力化というか、売りというか、良さの主張ということと連動してくるとは思うんですけど、たとえば今おっしゃられたように小学校が近くですよということが一つの売りになる可能性もあるわけですよ。なので、公立幼稚園の良さというのはどういう形を出していくのかということと連動はしていると思うんです。例えばこれもバスの議論にも絡んでくると思うんですけど、例えばバスを走らすというふうになったときに、圧倒的に保護者と幼稚園の先生方との顔を合わせる機会とか話をしていく機会は減るだろうというふうを考えており、公立幼稚園のよさは顔が見える関係だというふうに主張されるのであれば、先ほどの位置のバランスの問題というところから考えたほうがよいかもしいないので、歩いていけるということの一つの目印に。

考え方はいろいろだと思うんですが、例えば堺の美原区は、美原町だったときは4園あったものを、本当に1園の巨大幼稚園をぼんと建てて、バス4台ぐらいをお持ちなんです。確か、それで全部集めてという形で保育をされると。1つのあり方だと思うんです。そのために人数がふえた、にぎやかになったけれども、全部バスの通園になったと。今回、中学校区というか、最低というふうにおっしゃられているということは、そこであればそういう基準の置き方もあるのかなと思います。

○大方委員長 そうすると、例えばト田先生のお考えやったら、位置図でいえばどの三角形。

○ト田委員 三角形でいえば、バランスからして近過ぎると、かぶっているところが大きいと、逆にそこから外れているところはとらえにくいということです。そういうこと例えば、ケースでいえば、例えばケース1か……

○大方委員長 ケース1、5ページね。これが一番広い。

○ト田委員 広いというふうにおっしゃられたように思うので、かぶりが少ないという意味では、例えばケース1とかケース3のあたりが該当しやすいのかなというふうに思うところもある。ただ、もう一つの基準として、小学校との距離なのかなと思うんです。やっぱりちょっと遠くなると日常的な交流ができにくいので、実際その小学校に上がらないという話であったとしても、小学生との交流は必要で、小学校ってこんな雰囲気なんだということを知っておくということのほうがかなり意味があるということ言えば、これは

実は私学にはない特徴といえるわけです。私立の幼稚園の場合、幼小連携というところの蚊帳からはちょっと外に漏れてしまうということが実際、前回は議論に出ていたと思うんですけどあると思います。そういう基準でもっての方向もあるというふうに、そのバランスと小学校との隣接とってということ。あと、ただいろんな基準というのがあったとすれば、将来的にこども園とか総合施設ということを考えてときに、広さ的に大丈夫なのかどうかということはチェックしておく必要はあるかだと思います。という考え方もあるかなと思います。

○大方委員長 近過ぎる将来だから。

○ト田委員 新しく園をこのバランスのいいところにぼんと建てるというわけにも恐らくいかないと思うんです。

○大方委員長 幼稚園が、だから公立幼稚園を残るなんていうことはないし、残るだけでもすごい。そして、広さ的にいうと、高陽はさっき言ったように広さがあって、高石さんはってところがありますね。羽衣と北は余り関係ないけども、小学校と隣接しているのは羽衣なんか。加茂に関しては敷地も一番広いですね。ということは、ちょっと前段みたいな感じですけども、2ページに戻っていただいて、案を案として再編基準をですね、これを案としてオーケーするかどうかということを決めなければいけないということで、一応今のような感じでいうと、適正規模の基準というのは、弾力的に運用してもいいというふうなことで確認させてもらったと思うので、最初言っていた20名ということに一応こだわらずに、やや緩やかなと書いてくださっている。可能な限り複数にすると。これは複数のほうが望ましいことで、可能な限りなので、実際に再編してどうなるかはちょっとわからないですけども。

それから、適正規模としては、生活エリア及び通園時間・通園距離、中学校区ですから今ト田先生おっしゃったようなことでわかったこととか、公立幼稚園で保護者と顔が見える距離でということであれば、ある程度点在しているほうが、行きやすいほうが、真ん中にぎゅーっと3つ残して遠くの人はいないとかあるのかなと。

それから、再編基準として、就園率、先ほどの一覧表ですね、3ページに載せていただいた就園率とか建築年数、敷地面積、耐震構造、幼小連携、配置、周辺環境ということは、この間皆さんからもいついただいているので整理していただいたんですが。特に基準に関して、既に議論が始まっているんですけども、問題なければ、その案をとっていただけたらと思います。よろしいですかね。

そしたら、この案というのをとっていただきまして、一応高石市立幼稚園の再編基準は、この2ページを基準として再編ということで進めていただけたらと思います。

考えなければいけない視点として、先ほどト田先生がおっしゃったようなこともあるんですけども、2ページのところでは、再編基準に基づいて評価項目ごとに適正な配点を行い、総合的評価による再編が必要な市立幼稚園を抽出すると書いてありますが、今、私たち話していますが、評価項目ごとに適正な配点を行い、総合的評価というのは、適正な配点というのは、事務局のほうで何か配点というのはあるんですか。

○事務局 事務局案として考えておりますのは、8項目ございますけども、満点で100点というイメージの中で、各項目ごとに10点あるいは20点を配点していきたいと考えておまして、先ほどト田委員のほうからおっしゃられましたように、今後の新システムの動向も見据えた上で判断するとしましたら、敷地面積なんかは、かなり重要なポイントになるのかなと思いますので、こういったところには10点ではなく20点を持っていきたいなとか、あと定員に対する就園率と幼児人口に対する就園率と書いてございますけども、これも実際、その区域におられる方がどれくらい公立の幼稚園を志望しているのかというのは、幼児人口に対する就園率のほうがわかりやすいと、理解しやすいと思いますので、そういったところに20点というポイントを配点させていただいて、残りの6つについては10点という中で、例えば定員に対する就園率で申し上げますと、50%あるところには10点、30%以上あれば5点、それ未満なら0点とか、そういった配点をしたいなというふうに考えております。

ほかにも順番に、今、案として持っているものを申し上げますと、幼児人口に対する就園率は、これは満点20点ということで考えていますので、30%以上が20点、20%以上で10点、10%未満であれば0点と。それから建築年数でございますが、これは30年以下のものについては10点、それから40年以下が5点、40年を超えるものについては0点というふうに考えてございます。

敷地面積についてでございますが、これは3,000平米以上あれば20点をつけたいなど。3,000平米未満であれば10点だけというふうに考えてございます。

耐震の1次診断の結果でございますが、いわゆる安全性が一定確保できるのは0.8以上になりますので、0.8以上あれば10点をつけたいということですが、0.3以上で5点、0.3未満は0点ということで考えてございます。

それから、位置的な関係、幼小連携のことですけども、隣接をしている場合には10ポイ

ント、10点かなど。比較的近いところには5点。距離的に離れているところは、位置的なことで問題があるということで0点。

それから配置的なバランスでございますが、三角の面積が広くとれるような、重複する場所が少ないようなところについて、バランスが保てるようなところについては10点。可でも不可でもないというようなところは5点。周辺環境についても、よいなとイメージもたれるところについては10点。可も不可もなしというところには5点というような配点で今のところ考えてございます。

以上でございます。

○大方委員長 ありがとうございます。客観的には数字で示すけれども、私たちが今しゃべっていることと、この数字は一致するんやろうかと思いながら聞いていたんですけど。うまく一致すれば、それでいいと思うんですけど、一致しなかったらどうしようと思って。

そのことと、もう一つあるのは1ページ目、最終的に先ほどバスのことが出ていたと思うんですけども、バスも1ページ目のところでは、バス等による通園手段の確保について検討を行うということになっているので、走るか走らないかということも考えていくと。

それから、預かり保育及び3歳児保育ということに関しましても検討を行うと。今後、受益者負担を考慮しながらも、市立幼稚園がどう取り組むべきかについて検討を行うということ。それから、財政状況を見きわめながら3歳児保育の試行的な導入について検討を行うということですから、検討、調査を行わなければいけないと思いますので、それに関しましても、ご意見があれば伺いたいと思います。

○中西委員 今回の3歳児保育の件ですけど、これ検討を行うということは、来春からということはないということですか。そういうわけではないんですか。

○事務局 試行的に導入を検討しなさいという報告をいただいておりますので……

○中西委員 それは試験的にということですか。

○事務局 あり方検討会からはそういうふうにいただいておりますので、それを踏まえて、今まで事務局内部での検討をやってまいりましたけれども、こういった検討委員会の場でも意見を伺いたいというふうなことでございます。

○大方委員長 物理的に来年のすぐ4月にするといったら、しんどいと思うんですけど。

○中西委員 この委員会では全然関係ないんですね。委員会では3年にするとかというのは、全く違う話なんですね。

○大方委員長　そういうことをどうするかと案は上がってもいいかもしれないですけども、縮小することに関して、ただここでやりますとか、やりませんかとかということは私たちは決められないですけども、考え方としたらそういうこともビジョンとしてあってもいいかな。

○中西委員　保護者の意見の中では、やはり、前回もお話しさせてもらったんですけども、統廃合になるのであれば、どこか園がなくなるのであれば、3歳児保育はぜひという声が一番高いので、ちょっとどういう場でお話しさせていただけるかどうかわからなかったので、今こういうふうに出ていたので、できるだけ早いうちにそういうことをしてほしいなとは思っているんですけど、本当に5園を残したいというのは本音なんですけども、もう今回縮小するということが何園かは減らすということの話なので、それはもう本当になかなか割り切れないところですけども、そういうふうに考えないといけないとも思いますので、減るのであれば、もう本当に3歳児の保育というのは絶対とっていいほどの声が多いんです。もう反発もはっきり言ってすごいです。私一人じゃ伝え切れませんが、やはり減らすのであれば絶対3歳児保育でないという反発的な、市のほうからお母さんを集めての話し合いじゃないですけど、そういう場を持っていただけないですし、それでまず反感をかっていますし、何の説明もなくこういう大事なことをこんな短期間で決められるというのは、本当に保護者に対しては高石市に裏切られたと言われるぐらいつらいお声をたくさんいただいているんです。ですので、やはり減らすのであれば、3歳児保育はお願いしてくださいというふうに言われたので、この場では関係ないかもしれないですけども、ちょっと意見として言わせていただきます。

○事務局　3歳児保育につきましては、あり方の検討委員会からの報告書で言われていますように、試行的な導入を検討しなさいというのがございます。それと、保護者のPTAさんの方から、直接、役所のほうにお越しいただいて、要望等をいただいております。ですから、そういった意味で、ニーズは確かにあるんやなというような認識はしております。

今、冒頭に申し上げましたように、国の子ども・子育て新システムという考え方の中で、平成25年度から新たな法律で施行していくと。今年度中には法案を上げて行って、国会を通すんやということをいま言われております。25年度に今の考え方のままで新しい法律が施行されましたら、当然幼稚園では自動的に3歳児保育もやっていかねばならない状況になります。もうすぐ近く25年ですので、我々としては、その法律の施行に合わせた中でやっていくべきかなというふうな思いもあるんです。前倒しでやったらどうやという意見もちょうだいしていますけども、今からすぐに24年度スタートということになれば、我々と

しては3歳児保育だけやなしに、一定ニーズのある預かり保育なんかもセットでできたら提供していきたいと思っておりますので、24年度当初からというのはちょっと準備期間が短過ぎるんじゃないかなという思いもおりますので、24年度の1年間とこの23年の残りの間、しっかり現場のほうにもいろいろ研究、検討をやっている中で、25年度の法施行時には万全を期して3歳児保育もやっていけるような状況になれば一番いいかなというふうに思っているところでございます。

○中西委員 25年度にいろいろ変わるといっておっしゃっていただんですけども、それまでにどうしてことしは減らさないといけないんですか。25年度に減らすために、ことしは準備段階として話していくというふうにはいかないのか。今年はどうしても減らさないといけないんですか。

○事務局 何度も申し上げるようになるかもしれませんが、幼児教育のあり方検討委員会からのあり方についての報告というのが、平成21年11月に出ているんです。それから2年弱たつわけなんです。いつまで放っておくやというような議論もございまして、市としてもそのあり方の報告が出たままでほったらかしにしておくわけにもいきませんので、今言われているような幼児教育のことについて、いろんな面から検討して行って、実現していく立場にはあると思うんです。

そういったこともあって、いつまでもほうっておけないという状況の中で、今こういう検討委員会をさせてもらっているんですけども、それよりも最初に説明させてもらいましたように、あくまで市の幼児教育のあり方として、本当に子どもさんの多感な時期にいい教育ができるような環境をつくっていきたいんやと。それを早く実現したいんやという思いがこの再編という方向に向かっているんです。今の現状のままでしたら、ほかのサービスを導入したら増えるんじゃないかというご意見もありませんけども、なかなか財政的な事情もございまして、すぐにはできないという理由もありますので、再編によって、それで、スクラップ・アンド・ビルドじゃないですけども、そういう形で幼児教育のサービスの向上を図りたいなという思いで見直しをしているというふうにご理解いただけたらなと思います。

○中西委員 それは、保護者には説明はないんですか。そういうことは、そういう場を持っていただけないんですか。今のご意見というのは、私一人で受けるんじゃないで、実際幼稚園に通われているお母さん方に直接お話ししていただく会というのはないんですね。

○事務局 この検討委員会に……



○中西委員 余りにも間口が狭過ぎませんか。

○事務局 この検討委員会が終わるといいますか、こちらのほうから出ささせていただく再編等の計画に対してご提言いただく予定してはいますが、その後、保護者の方々には説明責任がございますので、その地域に出向いて行って、市がこういうビジョンをもってこういうふうにやりたいので協力をお願いしますというような説明は必ずします。

○中西委員 それはもうでき上がってからですよ。

○事務局 方向が決まってからです。それまでご意見を聞くという状況にないかもしれないですけども。

○中西委員 そうですね。それがやっぱり一番反感を買うんですよ、保護者としては。生の声を聞いていただけないですからね。

○事務局 そういったお声を代表して言っていただけたらありがたいなと思っておりますので。

○中西委員 でも、全然受け入れられないんですよ、そういうのは。本当にそうですね、そう思います。おっしゃっていることはよくわかりますけども、やっぱりその前に一応みんなの前で話していただくのが筋じゃないかなとは思っているんですけど。

○事務局 あり方の報告の中で一定の方針が示されていますので、それが出ていなかったらその説明も必要なのかもしれませんが。

○中谷委員 今もう、中学校区で3園残ることははっきりしたんですね。1園減るだけかなとかいろいろみんなも思っていたりとかして、私も1園だけ減るのかなと思っていたんですけども、3園になるのは決定。中学校区に1園と、それはもう間違いないんですか。

○中谷委員 そんなふうになるのかなと、今私どもの数字がはじいているんですけど、公立幼稚園が少なくなったら少なくなっただけ、やっぱり子どもが歩いて通える公立幼稚園のよさがなくなるということはあると思うんです。今、公立幼稚園のことを考えて再編するんだとおっしゃっていて、私もそれはわかるんですけども、遠いから通園バスを出したらいいと言うけれども、顔が見えない。見えなくなったら公立幼稚園のよさがなくなる。何かやっぱり聞いていると、公立幼稚園のよさがなくなるような再編になってしまう気がするんです。

その辺、この間も財政面だけじゃなくて、教育的意義がある再編をとというようなことを皆さんおっしゃっていただいて、私も本当にうれしいな、ありがたいなと思ったんですけども、そういうところを今、ポイント制で割り振っていくというふうなことだけになる

と、教育的意義というところはどこで出てくるのか。どこで示されるのかなと、すごくそれを思うんです。数字ではなかなかあらわれにくいものだと思うので、教育的なことは。私たち高石の園長会で、アンケートを保護者にとらせていただいたんですけども、やっぱり3歳児保育は必要という方が319人中88%なんです。本当に保護者のニーズです。これはもう間違いないです。

そのほかに預かり保育のこととか、通園バスのこととかも、前にいただいた検討の中に入っていましたので、一応とったんです。そしたら、やっぱり預かり保育はというのを明記すると、今の保護者はやっぱり預かり保育はして欲しいというのが85%なんです。要らないという方は14%だったんです。それも保護者のニーズなんだなということがよくわかるんですけども、でもやっぱり、この再編で通園バスが必要だと思いますかということに対しては58%なんです。半数以上なんですけれども、やっぱり遠いから仕方がないという人もいるんですけども、意見の中に、遠かったら仕方がないけれども、やっぱり歩いて通える距離、子どもに負担のない距離を守ってほしいという保護者の意見がすごくあるんです。やっぱりこういう、これは課長さんにお渡ししたので見ていただいていると思うんですけども、これがやっぱり保護者の、中西さんが代表して出てきてくださっていますけど、ここに保護者の声もありますので、こういうポイントだけでどうこうしないようお願いしたいと思います。

○西條委員 ここで話すべき問題なのか、ようわからへんねんけども、幼稚園の職員さんでいてますね。先生方、これは減ったときに、いけるんならどこら辺ということは、ここで考える問題でもないんかもしれませんが、僕ら働いている者にとったらちょっと気になるというか、5が3になって、職員がどうなるのかなというところ辺も気になるといえば気になるんですよね。

○大方委員長 民間やったら、私らだったら首やけど、公立やから首にはならへんでしょう。

○事務局 今現在5園ある中で、臨時的任用職員さんでもって補充をやっている仕事が結構ございますので、そういう方々は半年ごとの雇用ですので、3園になった場合には、そういった方々の雇用はなくなるかもしれませんが、正職員さんは、そういった方々のかわりではないですけども、3園に適切に配置できるというふうに考えてございます。

○菊野委員 さっきから削減、削減ということが出ていますけども、そらマイナスも削減やけど、例えばやっぱりものって前向きで見たいと思うんです。3つになることで、良さ

ってあるのかなと思ったりするんです。全部マイナスでネガティブなものかという、そうなのかなということを書いて、例えば僕別に減らしたほうがいいとかいう意味で言っているわけじゃなくて、客観的に考えていくべきかなと思っているんです。

たとえば2園があつて1園になりますよね。そしたら、1園減ることで、自分の母園が減ったりしますよね。それに対する感情的なものがあつて、僕だって反対ですよ、自分の出身やっとながなくなると。その反対ですけどね。しかし、それによって得ることは何なのかなと思って。現実それはどう思われるのかなと。それは何やと。1園になつて。例えば子どもたちの、ここでいうクラスがあつて、1園になりますよね。それから、先生方もふえるわけですよね。さっきは障がい児に対する教育というのがありますよね。それは先生が少ないほうがいいのか、先生1人と子ども1人のほうがいいのか、先生2人と子ども1人のほうがいいのかというのは、どっちのほうがいいかということですよね。それは多いほうがいいやろうなと思うし、先生方の協力関係、例えば公立はどうしているか知りませんが、1人が病気になって休みますよね。そのかわりほかの先生が入ってくる時小さな園ならできない、大きな園ならできた。子どもを見る目がいっぱいあるわけやから、そういうことですごくプラスになることもあるのかなと。だから、メリットというのはどの辺なのかな、デメリットはどうかなと考えたときに確かにデメリットはいっぱいあると思うんですけどね。僕の中ではメリットが多いのかなという気がするんですが、恐らくそういうことをまず、この前の委員会であつたわけですよね。そこでこういう結論を出したということは、それも含めての、財政上だけの問題と違うと思うんですよ、恐らく。教育的な意義を考えて、僕はこういう再編基準をつくられたのかなという気がするんです。

それで、ここの基準も単なる数字の寄せ集めだったらあかんのかなと思ひまして、メリットに合わせて今得点化の重き付というものがあるべきなのかなと。だから、そういう見方はできへんのかなと思ひながら、そうして見ていかんと、恐らく結果としては多分減ると思うんです、これ。それだったら、そこを見詰めていかんとあかんのかなと思ひたりするんです。

もしくは、もう1この、残しておいてもいいと思うんです。5園を残しておく。どうなると思います。そうすると逆に心配です。5園残して意味があれば、それはそれでいいと思います。そうするとどうなるかという、財政的に問題が起きるだけで、ずっと同じことをやってなあかんわけですよ。客観的に見て、どっちが正しいのかな。3園になることが正しいと思っているのか、5園か、その辺が僕の中で、ちょっと違うかなと思っている

んです。

○中谷委員 でも、今の現状だったら、公立幼稚園5園残るのは本当に一緒だと思うんだけど、それはだれでもが同じこと。でも、私たちが思っているのは、3年保育をしてもらっていない段階で、今、その段階でこういうことを、基準をどうこうとか、されるといいうことがやっぱり憤りを感じています。これ私立も3年して、公立も3年して、それで公立がじり貧になっているといったら、職員も、私たちの力のなさだから、潔くそれは認めますけれども、そういう同じ土俵に立てていない。しかも、保護者のニーズは公立幼稚園で3年保育があれば私立に行かなくていい、公立に行かせるという、本当に88%ですかね、そういう声がある。そういうことからして、3年保育というのは、この再編の私たちははずせないものだと。

○菊野委員 同じ土俵に乗っていない。

○中谷委員 乗ってないから私たちは怒っているんです。

○菊野委員 その上でこうだったからという。

○中谷委員 それはずっと3年保育をとって、前の園長先生たちも言ってきてはるらしいんですけども、それも私立にゆだねると言われてずっと今までできて、ほら見てごらん、じり貧やないかと。公立幼稚園のそういう人数の少なさから人気のなさを言われても、私たちはそれはおかしいと思うんです。そこをやっぱり検討していただけたら。

○中西委員 統合された場合、その年、ことしは人数がふえますけども、やはり2年のままだと、減っていくのが目に見えていると思うんです。なので、やっぱり3年になって3園、それがメリット、それ以外私には考えられない、メリットを探しても。

○大方委員長 だから、3年保育をやるということが凝縮するメリット。

○中西委員 そうですね。それが一番です。

○大方委員長 3年保育も預かり保育も基本的には必要性は高いと、個人的にはですよ。思うんですけども。

○菊野委員 維持するためには3年保育が必要だと。園を減らしたりしたって

○中西委員 そうですね。絶対ふえないですね。特に公立幼稚園は私立幼稚園ほど市のほうでアピールとかしていただけていないんです。私立幼稚園はわからないですけども、公立幼稚園は全くホームページだとか、そういうのも全く充実していないですし、園長に私相談したことがあるんですけど、余りにもこのままでは園児が減っていくので、増やすにはどうしたらいいかという話をちょっとさせてもらったときに、もっと宣伝したらどうな

んですかと。公立幼稚園はそういうのをしたらだめだと私は思っていたんです。だけど、極端な話、スーパーだとか、お母さん方が行くようなところに公立幼稚園のポスターを、いついつこういうことをやっています、3歳児さんが遊びに来てくれるのはここですみたいな、そういうのもっとアピールさせてくださいと言ったんです。もっとインターネットも活用して、そういうホームページなんかも充実させてほしいという話をしたので、それは私できないと思っていたんです。そういうのもっと園児を集める必要もあると思うんです。ちょっと5園でももっと。

○菊野委員 そういうことをすることが大事だと思うんです。

○中谷委員 本当に、そこは突かれると痛いところですけど、ホームページに更新とかいうのは、職員の手がない中ですするというのも、とても難しい段階だなと思っていたんですけど、今の保護者はみんなホームページあけて見はるので、それは必要やなどは思います。

ポスターは私たち、あちこちに張りには行かせていただいているんですけども、3歳児の親子見学会とかは大分定着してきて、口コミもありますし、そういう点では私立のような必死さというところでは公立は欠けているなと思います。

○中西委員 育児サークルというのですか、幼稚園に入る前の小さいお子さんばかりを集めたサークルさんにもアンケートをとらせていただいたんです。やっぱり公立幼稚園は何をしているかというのが余り明確でないと。いついつ何があるというのがわからない。やっぱり情報不足、宣伝不足とすごく感じたんです。やっぱり一番は、公立は3年ないから私立に入れますという方がやっぱり多かったんです。それはすごいショックでした。やっぱりそれだけでという、この1年は大きいんだなというのをすごく感じました。

○大方委員 それは大きいと思います。

○ト田委員 恐らくそこで難しくなるのはあれなんですよ。公民の役割分担というのを考えたときに、これは市町村によってはある種のルール作りが大きいというのがありますけど、公立で3歳をやるということに関しては、やっぱり私立の幼稚園さんのほうからの反発が当然あるわけですよ、非常な脅威だと。例えば5園あるものが、今、高石の5園が全部3歳をやったら、恐らく公民の役割分担のバランスと信頼関係というのは根本的に崩れる可能性もどこかであると思うんです。私そこまではよくわからないですけど、可能性としてそれもありますよねということ考えたときに、どういうふうな持っていく方ができるのか、できないのかというところはいろいろ考えないといけないと。もしかしたらあるのかもしれないですけど、ただニーズということをいうと、そのときに、例えば今お

っしやられたように、3園になるとか、園の数が減りますというようなところの中で、3つが3歳からやりますとか、とりあえず1園が3歳を試行的にやってみますとかというようなスタートを切ったほうがいいのか、それともいろんなそういうことを考えたときに、平成25年度のスタートの時点から3歳というのをせーので始めるといような形でやったほうが落としどころとしてはいいのかということもあると思うんです。それは、そのあたりのことというのはあると思います。

ただ、3園ということに例えばなった場合、ある程度5園で分散してきた財政的なものというのが3園にいくということであれば、財政的なメリットといたら、例えば保育の中で必要なものであったり、人員配置だったりというような、どういうことができる可能性というのがあるのかどうなのかということもメリットと考えていくところであるかもしれないですね。

○菊野委員 新システムできてからとか、寄せ集めみたいな感じのことをもっとしっかりした形で、スタートしといたほうがいいのかというふうな気もいたしますね。

○大方委員長 3歳児保育も預かりも、今や必需品ですよ。私立は2歳、どこでも2歳から、幼稚園も民間は必死です。どんどん先駆けて先取りしていかないと、いかに市場のニーズに合わせてやっていくかということ。

○菊野委員 それは大学も一緒ですよ。私立もどうしてあるのか。僕らも。

○大方委員長 営業マンですよ。

○菊野委員 先ほどのホームページを作らなあかんとかいうね、それ見たら、配るものが違ふとかいう発想がいたるか。

○大方委員長 民間の先生の方がずっと給料が低いんですよ。変な言い方やけども。だって、もう生きていくために必死やからね。だから、そこは逆に校長先生がおっしゃったのは逆で安泰なんです。子どもが少なくなろうが、何しようが保障はされている。今、財政という理由で、70人に対して人が配置されないかんと。子どもが減ったから人を減らすということはできない。設置基準があつて、子どもが70人来て、140人来ていたとしても、今だから就園率が16.4%だから、140人に対して23人しか子どもがいないわけです。広いところに23人で、たぶん先生の数は同じだから、1人当たりの先生の手の入れ方はすごく手厚い。保護者にしたらすばらしいですよ。140人来たら、もっと状況は変わる、違ふし、1人当たりのケアも違ふわけですから。加茂幼稚園が幾ら多いといっても、175人が50%しかいなくて、実際は子どもの数は90人しかいなくてなので、満たされているわけ

ではないわけです。だから、私たちだったら満たされないようなことは絶対許されない。そしたらもう絶対給料が減るに決まっているんです。そうしないとじゃあこの税金誰が出すねんといって、理事長からはぎゃあぎゃあ怒られる。そういう面では非常に気楽、保護者にすればとても手厚いし一番いい状態。

○西條委員 前回、いわゆる教育的な観点といって、ちょっとそういうふうな指摘がいわゆる財政面というのも無視はできないなということで、今、考え方の一つは、どこかの幼稚園で例えば20人増員という現実は、やっぱり厳しく受けとめなあかんの違うかなど。そこに高石市民の税金が全部なっているというところ辺にも問題がある。それはやっぱり一つのネックは3歳児保育というところ辺もあるので、3歳児の問題を、ここ直接ないかもしれんけども、方向性としてきちんと書いて、打ち出していかなあかんというところがありますよね。全く財政考えんでええかというのと、やっぱり考えなあかんと思うので、そうなってくると、さっきの例えば5園だったら耐震工事、5園やらなあかん、そういう問題、それからもちろんこれからICTもエアコンも、いろんなことを充実させていかなあかん、もっとなってくると思います。そういう中で5つに分散するのか、やっぱりある程度集中して、そこに効果的にというところ辺の部分、やっぱり長い目で見たらあるんかなという気はするところがありますね。

○菊野委員 これこういう園ができたっていうのは何十年も前の話ですよ。それは人口何万もという話ですよ。今は違うんですよ。そやのに続けると、すごく僕にしてみたらぜいたくな話やなと思うんです。もし、恐らくみなさん税金払ってらっしゃるんですよ、税金をいかに払うか、公立に払うのかということになりますから、その辺もちょっと考えていかないと、じゃ今のところどうしようという話、極端な話ものすごく、自分の園がなくなってしまうとすごい感情的もありますけど、これ知的に考えたって、自分の子どもの園やと思うけど、しかし、そういうことを考えたときに今の園区はどうなのかなという、一緒に固まっていいこともたくさんあるわけだから、そのところは冷静に考えていったらどうかなと思うんです。

○西條委員 よくしなあかんもんな。3歳児のことも含めてようせえへんかったら、再編の。お金もやっぱりいただくので、そういう形にならへんかったら。

○大方委員長 5あったものが3になって、さっきの情報にしても、パソコンにしても、20人のためにパソコン置くのかと。3園で子どもがふえたから必要やねんといったら、当然裏付けが違ってくるからね。

○菊野委員 だから、これ再編というよりも、よりよい幼稚園をつくるための、そういう意味で。

○大方委員長 再編という言葉もすごく嫌な……。

○菊野委員 ネガティブな話じゃありません。それはそれでええから、教育やっている身やから、よくなってもらわな困るし、ぴたぴたと減らすことをしに来たんじゃなくて、僕はよくするために来ていると思ってるんですよ。そうしていかと、幼稚園や子どもたちは、いうたら裏切りになるし、それをしたらあかんと思うんです。よくなる場にしていかなくては。もちろん市民に対してもそういう感じで、これはあるべきやと思っているし、数少なくなって嫌なことをするんやじゃないほうがいいと思います。よりよくなる。

○西條委員 幼稚園、今聞いていたら、預かり保育と3歳児がものすごくやっぱり必要性が高い。

○大方委員長 両方セットやと思いますね。88%、85%。

○西條委員 両方がセットですね。

○大方委員長 預かりに関しては、10年前に国が出して、豊中とか高槻とかは、大阪府下でも、文部省の指定を受けたんです。たまたま個人的ですけども、文部省の指定のときに3年研究を予算ゼロでやったんですけど、そのときにものすごい公立幼稚園としてなんで預かりをやらないかんねんということもあったんだけど、結果として、今、豊中の公立幼稚園は全部残っているんです。民間もものすごく多いです、めちゃくちゃ多いところです。保育所もものすごく多いですよ。公立の幼稚園、保育所、私立の4つが、結局住みやすいまちなったんですよ、選べる。働いているお母さんで幼稚園へ行きたい人も、そこは選べる。私立も選べる、保育所も公立もある。これが一番ベストでしょう。市民にしたら、選べるというのが一番いいです。実は高槻、豊中というのは、めちゃくちゃ公立幼稚園の月謝が高いんです、高石よりずっと。公立全部一緒じゃないんです。高いんです。3歳児はやっていないんです。やっていないけども、やっぱり就労型とか、全園一緒じゃなくて就労型やっているところとか、園の地域性のニーズによって重点的に人を配置してやっているのが高槻なんです。だから、あそこはやっぱり公立の幼稚園も、民間の幼稚園もめちゃくちゃ多くて、保育所も公民むちゃくちゃ多いけれども、統廃合の話は一切ないです。

○西條委員 新システムになるまでに、わかったような、わからんようないろいろな問題がありますやんか。これ見通しとしたり、今年度中とか。

○大方委員長 平成25年です。



○西條委員 そしたらほぼもう。

○大方委員長 少なくともお金だけは平成25年に決定する可能性が限りなく高い。

○西條委員 高いというような考え方でいいわけですか。

○大方委員長 この震災で、もっと国でお金がないので、よりそういうふうな、一番はつきりしたことは、私が決めるんじゃないんで総理大臣が決めるんで知りませんが、今の民主党の考え方は、要は市民が選べるということです。選べるという形、チョイスできる体制で、幼稚園へ行った子と保育園へ行った子が違いがなく小学校で同じ意識でいられる。私幼稚園の子やねん、保育園の子やねんとかならないようにとかいうのが一緒の考え方、基本にあって、だから分断される縦割り行政ではなくて、一元化してほしい。窓口も一つにして、幼稚園を残す格好ですねという。3つでも今残すということではなかったら、幼稚園というものが最も残りやすいように、今度のシステムではなっているんです。特に公立幼稚園にはお金は絶対入ってこない、目に見えていることなので、3つであったとしても、ぎゅっとしてでも、ちゃんと残すようなイメージ、そのときには当然3歳児保育も預かりも全部ひっついてくることです、国も要ると思っているから。預かりもセットで必要となってくるので、もし来年するといったら、また部屋の問題、場所の問題、それから先生方の3歳児をやる研究をしてもらわなければいけない。3歳児は4歳児と全く別物なので、もちろんプロやからちゃんと、公立の先生はベテランばかりやからね。

豊中とか高槻は別の人を採用される。そうすると、また財源の確保が要るんです。正規の先生が昼間の保育をちゃんとして、ほかの人といったら人を。でも、高石市はどちらかというと、正規の先生が非常に多い。市町村によったら、担任といっても全部パートさんなんかいっぱいありますよ。高石市は全部正規の先生がきちっと保育をされるので、その分、預かりのほうや3歳児のほうもいかれるのかどうかというのは私が決めることじゃないのでわからないですけども、ベテランの先生が非常に多いので、それはメリットとして生かせるんじゃないかな。

だから、来年すぐになるとなるとなかなか部屋も、どこに空き部屋があってどうしてとか。それで、一番問題は、秋になったら園児募集が始まりますよね。私立は早いじゃないですか。そのときにはっきりさせておいてくれなかったら、もう9月、10月に始まるわけだし、もう夏なんかでも私立は募集かかってしまうので、今言うておいてくれなかったらまだ議会とかずっとあると、来年までにそれを全部はっきりさせるのは難しいです。平成25年のときには3歳児保育、預かりを、この会としてはできるだけお願いしますというようなこ

とは報告書にはかけるが、来年すぐというのはなかなか難しいので、そういう方向でぜひやってほしいと私も思いますし、3歳児保育も必要だし、預かりもやってほしいと、保護者のアンケートにも出ているんやから、バスはえらい少ないので、また検討が要ると。またこれもお金がかかってくるのでね。泉南も今年9を2にしてバスにしたんですけど、バスはバスで大変な問題がいっぱい出てくると。ぐるっと一周回る間に1時間以上かかっている。それぞれが来てくれたほうが、先生方もそのほうが保育しやすいし、お母さんも早く送っていくほうがいいわというのもあるので、必ずしもバスというのを待ってなあかんとか、いつ来るのとか、渋滞したとき、高石のほうの路線では、かなり込みぐあい考えられると、きっちりバスが来ないですよ。

そういうことを考えると、きっとバスは58%でやや後回しになるけども、2年後にこの3つが残るならばそれをさらに生かして、3歳児と預かりを今の間に、そのときには自信を持ってやりますと言えるように、いろんなところに勉強してもらって、部屋もどれぐらいの広さがあればいいとか、おもちゃも買ってもらうなあかんし、どんなおもちゃ買ってもらうかとか、いろんなことを、今からやっても1年大変ですよ。預かり保育、3年保育で結構いろいろな、お金の問題もそうだし、おやつはどれぐらい持ってきたらいいんだとか、もう既にやっておられるところもあるので、それをやっぱり試行していただいて、いい形にスタートできるように、ぜひ私はやっていただきたいと思います。

○ト田委員 例えば言われた預かりなんかでも、子どもの人数が少ないときに、じゃ今日の預かりで残る子は2人でしたとか、3人でしたという話になってくると、じゃそこに人を配置するのかという話になってくるんです。そういう可能性が出てきたときに、じゃ担任の先生が輪番制でやってというふうになっていって本当にええのかどうかというと、それに伴う難しさが出てくるんですよ。例えば職員会議ができないとかというようなことが毎日続いてしまうと、じゃそこで難しさがある。でも、例えばある程度の人数が確保できている中で、パートであっても預かりもやっている人が来ていますという状態であれば、預かり保育を成立させやすくなるというのは人数的な規模というところで、恐らくあると思うんです。

○大方委員長 絶対値が増えているほうがね。人数足りないから預かり見ませんとか、また費用対効果の問題が出てくる。少なくとも担任がやるというと、また大変なことになって。

○中谷委員 それ用の先生を雇ってもらってというふうにしてもらわないと。

○菊野委員 僕らの幼稚園は契約が違うんです。預かりの方は預かり、そうせんといま言われたように会議開けないですよ。職員会議とかね。

○大方委員長 そういうところ、こども指針がどう出てくるかわからないんですけども、ちょっとその辺のところは、3歳児をやるにしても、今のお話については3歳児のほうが大変ですし、さらにしんどい2歳のおむつということもありますし、トイレの問題も、今のトイレでいけるのかとか、それは民間はある程度歴史でやっているところもあるので。うちのところとにかく3歳児は大変、おむつのことばかり。やれますと言われたらいいけど、やっぱりいろんな、なかなか。

○中谷委員 トイレトレーニングのことや。まずそれなんですよ。トイレ、おむつ。そういうところを差し引いても。

○大方委員長 言ってあげられたら秋までに言わないと、保護者もあると言っててまたなくなつて後で言ったらまたそれこそ怒られるし。

○中西委員 秋の時点には必ずしますという公約じゃないんですけど、そういうのが欲しいですよ、やっぱり。でないと、統合するメリットが。

○大方委員長 余計に問題にじゃないですか、それはやっぱりしんどいので再来年に向けてやりますというように。

○中谷委員 それをはっきりそれを出していただいたら、保護者も安心できるし、私たちもそれにもっと具体的にやっていけるし。

○西條委員 そんなふうにしてほしいと。

○大方委員長 ほしいという願いは。ここで決めることはね。予算も全部ひっくるめてというつもりで考えていかないと怒られるけど、イメージとしてのビジョンを2年後にはできれば、子ども新システムのことでも出てくるんだけど、したいということぐらいは言えるのかなど。勝手なこと言って、よろしい。要らんこと言うなど、何を言うてくれんのかと。教育論になるなみたいな、話がずれているぞとかいって怒られたり。

そういうことも含めて、もうちょっと8時になるのでそろそろにしたいと思います。

○ト田委員 評価項目なんですけど、定員に対する就園率というのが、たとえば、地域の子ども的人数とかの状況を考えたときに、以前からずっと来ているのか、いつからこの定員になったのかわからないんですけどということが、地域の子ども的人数というところから考えたときに、はたしてこれが数字としてどれくらいの意味を持っているのかというのを考えたときに、この基準を用いて判定するのかどうかという議論も前提としてあるんで

すけども、だとしても、例えば定員に対する就園率と通園区域内の幼児人口に対する就園率では、就園率がさっきの10点、20点で30%になっちゃうんですね。そんなに就園率のことを、3分の1近くを置いていいのかどうかというのは若干疑問があるんです。むしろ通園区域内の幼児人口に対する就園率というのは、その地域の中で公立幼稚園に行く流れがあるのかなのかというところで、むしろこの1点でやってもいいのかもしれないという気もするんです、一つは。

同じことになるかもしれないですけど、例えば耐震1次診断の結果といったことを考えたときに、これが充足している園はどこがあるのかという話になると、かなり厳しい状況ですから、この数字は入れる意味があるのかという話もあるんです。全部というふうになったら、少なくともこの2つのものというのは、外してしまってもいいかもしれないというような考え方も含めて、この基準を検討をしてもいいのかなというふうには、重みのことを考えたときに、より教育的な配置というところに重みを置く得点の入れ方もあるのかなと、一つは思っているんですけど。

○大方委員長 ありがとうございます。そうしたら、保護者もいらっしゃって、8時になるのでそろそろ、きょうは大体これぐらいで。次回のときに、今、ト田先生のご意見があったんですが、評価項目の配点、いまなんとなく口で言っていたので、それを案として、ト田先生の案も、さっき言った事務局案も含めて出していただいて、それでみんなで見ていく。考えて、きょう別に結論出す日でもないと思うので、一応今日のところは大体中学校区に置いて、2と言ってもらっている間に中学校区に置くというぐらいだけは、気が変わらんうちに決めておきたい。また今度になったら、やっぱり2にしますと言われたらいいので、4じゃなかったのは残念でしたが、幼稚園が生き残れるのであれば。中学校区、きょう決めるわけではないんですけど、イメージで、そうしたときに、問題は羽衣、北、高石、高陽ですね。この辺のところの問題が次の評価基準になってくると思うので、次回はその辺のところも3ページの評価も考えながら、教育的な配慮とかも含めながら、議論を深めていきたいと思っています。きょういろんな議論は、イメージとして出てきたと思いますけども、重点的に考えていくならどこをどうしたらいいのか、考えていただけたらと思います。それを次回の議題にしていきたいので、その辺のところをちょっと一定整理していただいて。事務局

○事務局 わかりました。

○大方委員長 それから、勝手なことを次から次から、来年、ちょっと早いから難しいん

じゃないかと思いますが、25年に向けて預かりと3歳児保育を、私たちのビジョン案みたいなことでしか出せないんですけども、書いていきたいと思いますので、その辺のところを一応教育委員会としてもお考えていただいて、次回のときにご回答いただけたらと思います。

もし3歳、預かりやるとしたら、どういうことが必要かということ、いつまでにそういうことを園長会として考えてもらえたらいいのかということも、もしわかれば、せっかく園長先生来られているので、そうすると勉強のしようもあるかなと思うし、広さも、3歳児をやるんだったら、この広さがないとできないだとか、部屋数がとかあれば、見通しとして決めやすいかなと、発展的解消としていいかなと思います。

ということでよろしいでしょうか。今日のところはこのぐらいにしておきます。どうもいろいろご意見いただきまして、ありがとうございました。